

令和3年度山岳遭難救助研修会開催要項

1 目 的

山岳遭難救助活動を行う組織の指導的立場にある者を対象として、遭難救助に関する知識と技術、救助活動の構成法及びその指導法について研修を行い、現場での即応力及び指導者としての資質の向上を目指す。

2 主 催

独立行政法人日本スポーツ振興センター

3 後 援

スポーツ庁

4 協 力

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
北海道警察本部山岳遭難救助隊 岐阜県警察本部山岳警備隊
長野県警察本部山岳遭難救助隊 富山県警察本部山岳警備隊

5 期 間

期間① 令和3年10月11日(月)～10月15日(金)の5日間

期間② 令和3年11月1日(月)～11月5日(金)の5日間

6 会 場

独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所 及び周辺山域
〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂6 TEL(076)482-1212 FAX(076)481-1534

7 応募資格と募集人員

(1) 応募資格

登山の基本的技術を修得している者のうち、各都道府県における山岳遭難救助組織の指導的立場にある者。(警察・消防・自衛隊および民間救助組織等において、山岳遭難救助に携わる者)

(2) 募集人員 各期間20名 ※参加者のレベル等に応じて班分けを行います。

8 研修日程及び内容等

日 程	内 容	研修場所
1日目	受付 7:30～ 講義1～3、班別研修、全体研修	国立登山研修所とその周辺
2日目から4日目	班別研修、全体研修、研修報告	国立登山研修所及び周辺山域
5日目	班別研修、研修総括 閉会式 14:30～	国立登山研修所及び周辺山域

※詳細な日程及び内容は、国立登山研修所ホームページ(<http://www.jpnsport.go.jp>)で確認してください。

9 個人装備

国立登山研修所ホームページ掲載の昨年度(R2)の装備表を参考にしてください。参加承認者には後日装備表を送付します。

10 参加申込方法

(1)所属長等(関係部局長、教育長、署長、会長等)は、下記の(ア)～(オ)をそろえて参加希望者を推薦し申込をしてください。

提出書類	備考
(ア)山岳遭難救助研修会の開催について【別紙1】	各都道府県の関係部局、その他所属団体の担当者が記入してください。
(イ)参加希望者個人票【別紙2】	<u>参加希望者本人が記入</u> してください。
(ウ)登山経歴書【別紙3】	
(エ)健康・体力調査票【別紙4】	
(オ)参加確認書【別紙5】	<u>参加希望者本人が署名</u> してください。

※申し込み提出書類の様式は、国立登山研修所ホームページからダウンロードしてください。

(2)申込方法 電子メールまたは郵送にてお申し込みください。

【電子メール】 tozanken@jpnssport.go.jp (必要書類をデータ添付してください)

【郵送】 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂6

(3)申込期間 令和3年8月2日(月)～8月27日(金) 必着

11 参加者の決定等

(1)関係機関(消防庁等)と国立登山研修所が参加申込書類をもとに協議の上選考し参加者を決定します。

(2)参加の可否については、推薦者と参加希望者双方に電子メールにて通知します。

(3)参加承認者には日程表、個人装備表、健康診断書(当所指定の様式に限ります。)、保険申込書、事前課題等の提出物を同封します。※健康診断書等の提出に必要な経費は参加者側の負担となります。天候や感染症の拡大等により研修会を中止した場合でも主催者側では負担いたしません。

12 参加費用

費用内訳	金額
(1)国立登山研修所における施設利用料(前後泊含む全日程分)	2,000 円
(2)国立登山研修所における食費 (朝食 700 円×4 食、昼食 750 円×5 食、夕食 1,300 円×4 食の計 13 食分)	11,750 円
(3)傷害保険料 (公務災害で対応される方は申し込みの必要はありません)	4,000 円または 5,000 円
(4)諸費用(集合写真代)	950 円

※(1)～(4)は受付時に集金します(現金に限ります)。なお、金額は変更する場合があります。

13 参加申込の取り消しについて

参加申込後、何らかの理由によりやむを得ず申込を取り消す場合は、必ず推薦者から国立登山研修所に申込取り消しの理由等を連絡してください。

※原則として参加希望者本人から直接国立登山研修所への申込取り消しの連絡は受け付けません。

14 その他

- ・研修会に際し、報道機関の取材・撮影が入る場合があります。
- ・新型コロナウイルス感染対策に関して、別紙6を参照しお申込ください。

令和3年度山岳遭難救助技術研修会 日程表（予定）

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	
6		起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃	6
7		朝食・出発準備・移動	朝食・出発準備・移動	朝食・出発準備・移動	朝食・出発準備・移動	7
8	受付	引上げ救助例デモ 研修所周辺	山岳地帯における 救助活動 「総合研修①」	山岳地帯における 救助活動 「総合研修②」	山岳地帯における 救助活動 「総合研修③」	8
9	開会式・写真撮影					9
10	オリエンテーション	山岳地帯における 救助活動 「基礎研修②」	研修場所 ・ 研修所周辺 ・ 滝谷 ・ 雑穀谷岩場 ・ 瀬戸蔵谷 等	研修場所 ・ 研修所周辺 ・ 滝谷 ・ 雑穀谷岩場 ・ 瀬戸蔵谷 等	* 研修の総括をする	10
11	講義 「ガーディアン研修」 デモ映像の視聴 講義室					11
12	講義 「読図とナビゲーション」 講義室	* 班の習熟度により講師の指導のもと研修場所を決定	* 班の習熟度により講師の指導のもと研修場所を決定	* 班の習熟度により講師の指導のもと研修場所を決定	* 班の習熟度により講師の指導のもと研修場所を決定	12
13	班別顔合わせ 昼食					13
14	講義 「搜索の留意点」 講義室	主な研修内容 ・ 支点構築 ・ 自己確保・制動確保 ・ フィックストロープ ・ 背負い搬送 ・ ガーディアン 等	主な研修内容 ・ 懸垂下降による救助 ・ 吊り降ろし ・ 引き上げ ・ 張り込み・索道 ・ ガーディアン	主な研修内容 * 基礎研修をもとに実際の事故を想定して研修を行う	主な研修内容 * 基礎研修をもとに実際の事故を想定して研修を行う	14
15	講義 「山岳遭難救助における防御」 講義室					15
16	「基礎研修①」 支点構築の基礎 石八・木八 河川敷 土のう草とり 人工岩場 輪番で墜落者の確保実習 トレーニング室	移動・片付け	移動・片付け	移動・片付け	移動・片付け	16
17	移動・片付け					17
18	入浴・夕食 (講師ミーティング) (17:20~18:00)	入浴・夕食 (講師ミーティング) (17:20~18:00)	入浴・夕食 (講師ミーティング) (17:20~18:00)	入浴・夕食 (講師ミーティング) (17:20~18:00)	入浴・夕食 (講師ミーティング) (17:20~18:00)	18
19	班別研修	班別研修	班別研修	講義 「山岳遭難救助現場から学ぶ」 講義室	班別研修	19
20				班別研修		20
21	翌日の準備等	翌日の準備等	翌日の準備等	翌日の準備等	翌日の準備等	21
22	適宜入浴	適宜入浴	適宜入浴	適宜入浴	適宜入浴	22
	完全消灯 (22:30)	完全消灯 (22:30)	完全消灯 (22:30)	完全消灯 (22:30)	完全消灯 (22:30)	

独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立登山研修所長 殿

所 属 名

所 属 長 名

所 在 地 〒

担 当 者 所 属
氏 名
電話番号
Email:

令和3年度山岳遭難救助研修会の開催について（回答）

令和3年7月13日付け日ス振登第59号で依頼のあった標記のことについて、
下記の者を適当と認め参加を申し込みます。

推薦 順位	氏 名	年齢	勤務先・救助組織等	希望の期間 (①②で回答)

選考協議の結果、推薦順位どおりに選考されない場合があります。

希望の期間を①②で回答してください。複数の回答も可能です。

添付書類

- ・参加者個人票（別紙2）
- ・登山経歴書（別紙3）
- ・健康・体力調査票（別紙4）
- ・参加確認書（別紙5）

※上記の欄が足りない場合はコピー等で対応してください。
※参加申込者から取得した個人情報については、利用目的の範囲内で適切に取り扱います。

別紙 2

令和3年度 山岳遭難救助研修会 参加者個人票

ふりがな		性別	男 ・ 女
氏 名			
生年月日	年 月 日生	歳(9月1日現在)	
現住所	〒 電話() 携帯電話 ()		
勤務先・救助組織等			
勤務先等住所	〒 電話() Eメールアドレス (参加承認通知先)		
勤務先・救助組織等での役職			

※参加申込者から取得した個人情報については、利用目的の範囲内で適切に取り扱います。

令和3年度 山岳遭難救助研修会参加者登山経歴書

ふりがな 氏 名		年齢	(9月1日現在)
勤務先等		役職	

以下の質問に対して選択肢があるものは「○」をつけて、そうでないものは記述して回答してください。

	質問	回答欄
1	登山経験の有無について教えてください。(山岳訓練等も含む)	あり ・ なし
2	「1」で「あり」と答えた方は年間の登山日数を教えてください。	10日未満 ・ 10～20日 ・ 21日以上
3	ロープワークのレベルを自己評価してください。 (※ロープの結束、フィックスロープ工作、チロリアンブリッジの設置等)	自信がない ・ 普通 ・ 自信がある
4	「3」で自己評価した基準を書いてください。 回答欄	
5	登山装備を個人的に所有していますか。	あり ・ なし
6	「5」で「あり」と答えた方は所有している装備に○をつけてください。	登山靴 ・ 登山用ウェア ・ 登山用ハーネス
7	救助を担当する山岳エリアを教えてください。	例)北アルプス立山連峰 等
8	担当するエリアの昨年度の山岳遭難発生件数を教えてください。	件
9	昨年度の山岳遭難救助現場への出動回数を教えてください。	回

研修会・講習会 参加歴	有	当研修所主催	平成	年度	研修会・講習会
			平成	年度	研修会・講習会
		他の団体・組織等主催	平成	年度	研修会・講習会
			平成	年度	研修会・講習会
	無				

- 研修会参加後は所属クラブ等への伝達講習を実施していただきます。
伝達講習の実施状況について、追跡調査(郵送によるアンケート形式)に回答いただけますか。

はい	いいえ
----	-----

(裏面 NO. 2に続く)

(注)記入方法は箇条書きでも記述形式でも結構です。

1 あなたがこの研修会に参加する目的を簡潔に記入してください。

- ・ あなた個人としての目的

- ・ 山岳救助の指導者、指導者候補としての目的

2 あなたが所属する組織について(規模、人数、構成、伝達講習の対象 等)記入してください。

3 あなたの所属する組織で行われる山岳救助の訓練内容を簡潔に記入してください。

4 あなたが研修会に参加して、研修会の参加者同士で話し合ったり、意見交換したいテーマ、解決したい疑問点などを記入してください。(組織、救助技術、救助機材など)

5 その他、意見希望等あれば記入してください。

※ 参加申込者から取得した個人情報については、利用目的の範囲内で適切に取り扱います。

健康・体力調査票

所 属

氏 名

年 齢 _____ 歳 性 別 _____

1 アレルギーはありますか。 ない _____ ある(具体的に _____)
 ・ハチに刺されたことがありますか? ない _____ ある(具体的に _____)

2 生活習慣 喫煙 すわない _____ すう 1日に()本x()年間
 飲酒 しない _____ する (種類と量 _____)

3 既往症

4 服用している薬

5 身体状況

身長	_____	cm
体重	_____	kg
平熱	_____	°C
血圧 最高	_____	mmhg
最低	_____	mmhg

●健康状況について

1 日常生活

・ 疲れやすい	はい	いいえ
・ 睡眠が不足している	はい	いいえ
・ 普段、朝食は食べない	はい	いいえ
・ 日常感じている不具合を記入してください。		

2 登山行動中の問題点

・ 行動中に膝が痛くなる	はい	いいえ
・ 重たい荷物を背負うと息が切れる	はい	いいえ
・ バランスを崩した場合、リカバリーができずよく転倒する	はい	いいえ
・ これまでの行動中における健康上のトラブルあれば記入してください。		

● 日常的なトレーニングの様子について

・トレーニングを _____ (する ・ しない)

・トレーニングの種目と内容 _____

・トレーニングの頻度 _____ 1週間に _____ 回 1回あたり _____ 時間

● あなたの経験や体力について

・1時間に軽装で標高差何メートルを登ることができますか? ※近くの山で計測を行い、必ず記入する。

標高差 _____ m を登る。

* 近くに山がない場合は、1時間に何キロ走ることができるか計測して記入すること。

1時間に _____ キロ走ることができる。

・救助用資器材等を背負って、確実に歩ける重量は何キロですか。約 _____ kg

・登山行動を行ったときに休まずに何時間歩くことができますか。 _____ 時間

・自分の体力を5段階で自己評価してください。 自信がある _____ 普通 _____ 自信がない _____

5 4 3 2 1

体力を自己評価した基準を具体的に書いてください。

※ 参加申込者から取得した個人情報については、利用目的の範囲内で適切に取り扱います。

参加確認書

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所（以下「国立登山研修所」という。）は、登山の健全な発展を図るため、登山指導者養成のための研修を行うことを目的として設置されています。

「令和3年度山岳遭難救助研修会」では、山岳遭難救助活動を行う組織の指導的立場にある人を対象として、遭難救助に関する知識と技術、救助活動の構成法及びその指導法について研修を行い、現場での即応力及び指導者としての資質の向上を目指します。

実技研修は自然の中で実施する研修であり、国立登山研修所周辺の山域や岩場での研修が中心となります。あらためて、研修は危険を内包した自然の中で行われることを十分に認識した上でご参加ください。

国立登山研修所及び実技講師は、安全管理上の指導もしますので、その指示を踏まえ安全に研修会が運営されるようご協力ください。

国立登山研修所としては、研修会における安全対策には万全を期してまいりますが、研修は自然の中で行う活動であるため、それでも万が一、事故が発生した場合には応急処置を施し、必要に応じて、最寄りの病院へ搬送いたします。その際、国立登山研修所職員が随行または病院に待機するとともに、ご本人の緊急連絡先に連絡いたします。

また、傷害保険につきましては国立登山研修所が紹介します。（傷害保険については、公務災害が適用される方はご加入いただかなくても結構です。）

上記のいくつかの留意事項をご確認いただいた上で、下記に自署いただき、他の必要書類と併せて提出願います。

令和 年 月 日

氏 名

現住所